



Bーぐる沿線協議会ニュース

第7号

平成25年3月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

平成25年3月29日にBーぐる沿線協議会が開催され、昨年11月に区が調査したBーぐるの利用実態調査とBーぐる利用者アンケートの概要報告がありました。

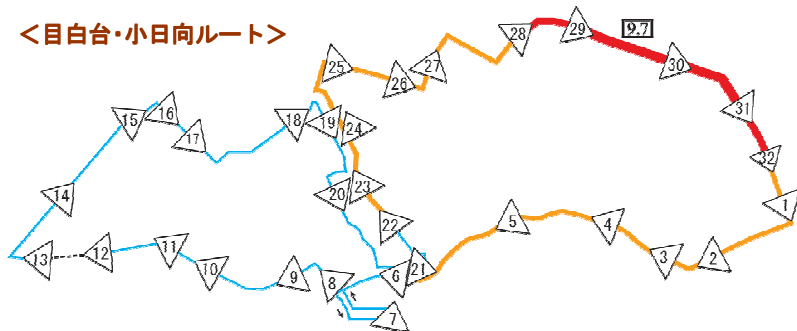
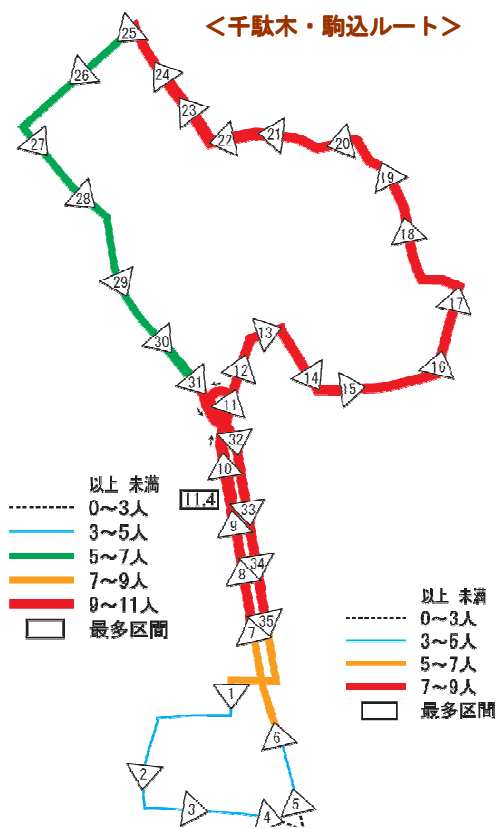
路線ごとの利用状況を把握

利用実態調査は、Bーぐるの利用状況や運行状況を把握するために、平成24年11月の平日、土曜、日曜の各1日、千駄木・駒込ルートと目白台・小日向ルートを対象に実施したものです。

各調査日の乗車人数は、千駄木・駒込ルートが平日1,502人、土曜1,512人、日曜1,415人、目白台・小日向ルートが平日1,048人、土曜963人、日曜785人で、両路線とも平日や土曜に比べ日曜の利用が少なくなっています（千駄木・駒込ルート約6%減、目白台・小日向ルート約25%減）。

乗車人数が多い区間（平日）は、千駄木・駒込ルートでは「7春日駅」から「25南北線駒込駅」までと「11白山下(シビック方面)」から「35春日駅」までが一便あたり9人以上が乗車している区間となっています。

同様に目白台・小日向ルートでは「28播磨坂」から「32後楽園駅」までが一便あたり7人以上が乗車している区間となっています。



定時性の確保を確認。文京シビックセンター乗り換えは要検討

Bーぐる運行情報システムのデータをもとに、所定の運行時間に対して定時性がどの程度確保されているかを調査しました。

千駄木・駒込ルートでは所定の1時間9分が最多で全体の約27%で、仮に±2分までを許容範囲とした場合、全体の約66%となり、3本に2本の割合で定時運行されています。

目白台・小日向ルートでは所定の58分が最多で全体の約19%で、これに±2分までを許容範囲とすれば全体の約75%、4本に3本の割合で定時運行されています。

これに関連して、千駄木・駒込ルートの白山下、目白台・小日向ルートの服部坂下、文京シビックセンターの乗継・乗換成功率を推計すると、白山下(約

92%)、服部坂下(約 100%)に対して、文京シビックセンターでは約 78%と相対的に低い数字であり、文京シビックセンターの乗換成功率を他の乗り継ぎと同程度に引き上げることが必要と報告されました。

これに対し、松井委員（区民課長）が「平成 27 年度に予定されている（仮称）新福祉センターの開設にあわせて、服部坂下の乗り継ぎや目白台・小日向ルート全体のダイヤを見直すことも検討していきたい」と述べました。



平日は「通勤・通学」、土日は「買物」に利用。6割以上が概ね満足

利用者意向調査は、Bーぐるの利用状況や運行サービスに対する評価や要望を把握するために、Bーぐる車内でアンケート票を配布・回収する方法で実施しました。回収数は千駄木・駒込ルート 1,181 票（回収率 46.9%）、目白台・小日向ルート 798 票（回収率 44.8%）でした。

両路線とも男女比は 1:2、年代は、千駄木・駒込ルートは 60 歳代以上が多く、目白台・小日向ルートでは 30~40 歳代が多くなっています。またバス利用者は、区民の割合が両路線とも 80%を超えています。

Bーぐるの利用目的をみると、千駄木・駒込ルートでは、平日では「通勤・通学」が最も多く、次いで「通院」と「買物」がこれに続いています。土曜・日曜は、「通勤・通学」が減り「買物」、「趣味・習い事」、「観光・レクリエーション」が増加しています。

目白台・小日向ルートでは、平日の「通勤・通学」が千駄木・駒込ルートよりも高く、土曜・日曜では「通勤・通学」にかわり「買物」や「趣味・習い事」が増加しています（図 1）。

また、Bーぐるの総合評価では、「満足」と「やや満足」を足した値が、千駄木・駒込ルートは 63%、目白台・小日向ルートが 74%となっており、両路線とも「概ね満足」といえる結果になりました（図 2）。

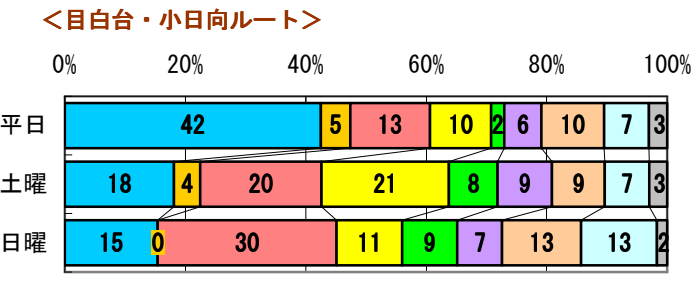
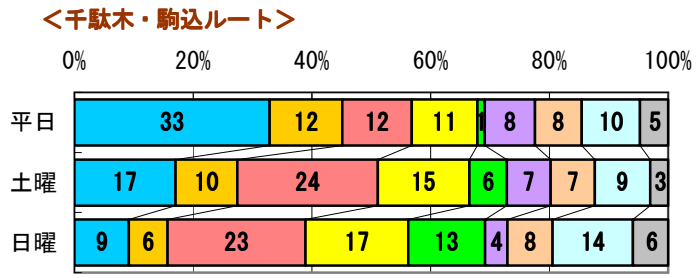
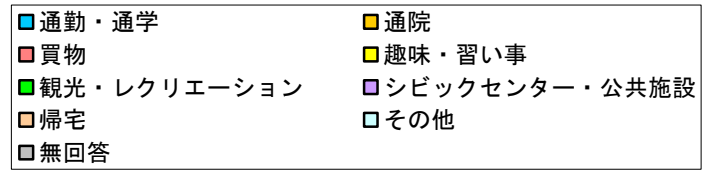


図 1 曜日別の乗車目的

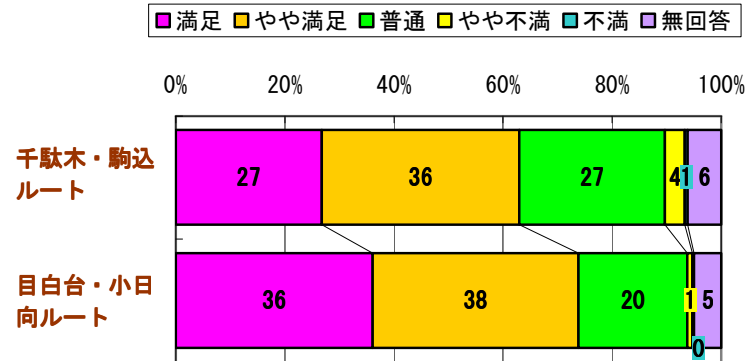


図 2 Bーぐるの総合評価

※図 1、図 2 は、小数第一位を四捨五入しているため、割合の合計が 100 にならない場合があります。

編集後記
 Bーぐるの乗車人数や乗車目的は、路線や区間によって、また曜日によっても違いがあることがわかりました。今回報告された結果を踏まえ、今後も利用者の声を反映させながら、便利で快適なBーぐるを目指してほしいと思います。(N)